

東光寺だより

Welcome to 東光寺ホームページ

12月に開設以来多くの方々にホームページを訪れていただきありがとうございます。海外からもものぞいていただき感激いたしています。いっそう頑張って東光寺の名に恥じない中身の濃いホームページにしたいと思っています。

もうすぐ仏涅槃会

仏教寺院では、お釈迦様がお亡くなりになったご命日に（旧暦2月15日ごろ）「仏涅槃会」（ぶつねはんえ）をおつとめいたします。

大抵の仏教寺院には大きな涅槃図（掛け軸）があり、それを本堂にかざり、ご供物を供え読経いたします。

涅槃図は言うまでもなくお釈迦様が亡くなられるご様子を描いたものです。弟子の阿難尊者をはじめ多くの崇拝者がお釈迦様の死を悼んで集まりました。動物、虫たちも集まりました。これはお釈迦様がご説法のなかでこの世に命を頂いて生まれてきたものは人間だけでない。すべての生き物の尊厳を説かれた「不殺生戒」にあると思います。



お釈迦様は頭を北に西を向いておられます。これが一番自然な姿であると言われていています。亡くなった方の棺を北向きにするのはお釈迦様と同じお姿にするところからきています。北枕を忌み嫌う人もありますがお釈迦様の死という概念からの迷信に過ぎないと思います。

お釈迦様のお亡くなりになったのを「入滅」「入定」「入寂」とも言います。また「涅槃に入る」ともいい

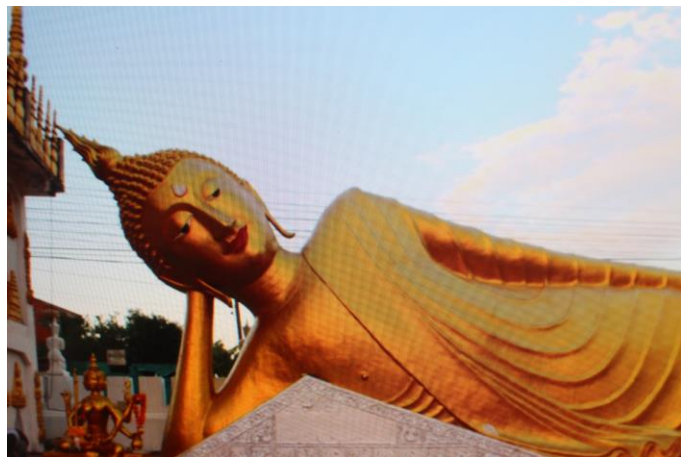
ます。沙羅双樹の林間で入滅された時その悲しみのあまりそれらの木は枯れてしまいましたが、釈迦の報を聞かれた生みの母である「摩耶夫人」が天女とともに参じられ赤い袋に入った蘇生の薬を投じられましたが途中の木に掛かってしまいました。袋がかかった木は生き返りましたが、残念ながらお釈迦様には届きませんでした。

この絵図の意味するところは何でしょうか。

お釈迦様は亡くなられたけれども教えは無くならないで後世に脈々と生きているのだと説く方もあります。

涅槃図から教えられることはたくさんあります。

一度この頃（2月15日）お寺参りをすると本堂に掛けてあるかもしれません。直に見ていただきたいとおもいます。



タイにある立派な釈迦涅槃像

2月から「みんなのギャラリー」と称して東光寺にご縁のあるみなさんの作品などをご紹介しますコーナーを開設いたしました。

このページのお知らせコーナーはよく更新いたしますので時々開けてみて下さいネ。東光寺のニュースがよくわかります。

ニュース

この度ホームページの片隅に 山本勝彦画伯のショップコーナーが開設されました。山本画伯は住職の絵画の師匠でもあり実妹の夫であります。一度のぞいてみてください。美しい絵に出会えます。

令和4年1月31日

文責 東光寺 住職 鷺見邦隆